

経営方針と対処すべき課題（有価証券報告書より）

① 目指す姿と数値目標

PURPOSE

企業の未来を支えていく。日本を変化につよくする。

配当（期末）
5円

② 中長期の経営戦略

1. 中小企業経済圏の確立・活性化

「集めて・つなげて・価値を創る」をキーワードに、当金庫がプロデューサーとして中小企業を支え、多様な参加者を結びつけ新たな価値を創出

3. 全社改革の推進

ビジネスモデル、経営の仕組み、人財・組織風土の変革と事業本部制導入により、5つの変革の実行を加速

2. 3つの資産の活用

全国・海外の重層的連携ネットワーク、全国に広がるお客さまとの信頼関係、志を持つプロデューサー集団を結合して戦略展開

4. 業務範囲の拡大

2025年6月13日施行の改正商工中金法により、サービス範囲を銀行法上の銀行と同様に見直し、中小企業への貢献を強化

③ 対処すべき課題

① 経営環境の不透明性

- ・米国の通商政策や日中関係悪化、地政学リスク、資源価格変動への対応が必要
- ・景況判断指数が2026年2月調査で49.1と悪化超。先行きは52.9と好転超も留意が必要
- ・中東情勢、原油価格、金融資本市場の変動への警戒が高まる局面

② 日本経済の構造的課題

- ・人口減少、国内需要の縮退、労働供給力の低下により国際競争力が大きく低下
- ・原材料価格や人件費の上昇、「金利のある世界」への移行という環境転換期

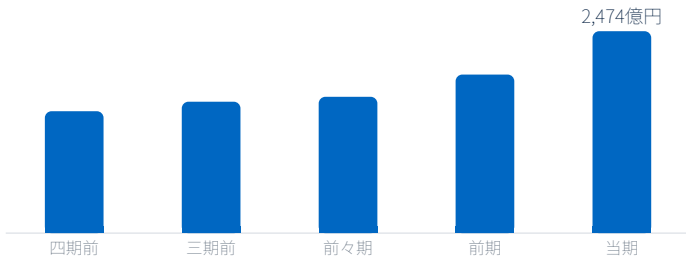
③ 民営化による新たな責務

- ・2025年6月13日の民営化実現に伴い、中小企業経済圏の確立・活性化という新たなミッション遂行
- ・株主還元充実と「中小企業による中小企業のための金融機関」という特性維持の両立

面接で使えるポイント

- ・改正商工中金法の2025年6月13日施行により業務範囲が拡大される中、中小企業の企業価値向上にどう貢献していくのかに注目
- ・長期戦略・変革プランで掲げる「中小企業経済圏」を通じて、外部情報と経営資源が不足する中小企業をどう支援するのか
- ・90年の歴史で築いた3つの資産（連携ネットワーク、信頼関係、人財）を活かし、プロデューサーとして何を実現するのか

業績の推移（売上＝棒 / 営業利益＝線）



暗記する数字3つ

連結売上高
2,474億円営業利益率
－（未開示）財務健康度
24点 / 100点

要するに

当金庫、子会社12社及び関連会社 1 社の計14社で構成され、銀行業務を中心に

主力事業・セグメント

- ・銀行 90.6%
- ・リース 9.4%

強み・特徴（公開データから）

- ・連結売上高2,474億円の事業規模
- ・将来性評価は晴れ時々曇り

※要約はAI生成のため誤りを含む可能性があります

将来性 晴れ時々曇り / 就活偏差値 61.9（当サイト算出の参考指標）

平均年収
852万円平均年齢
38.7歳平均勤続
14.9年女性管理職
15.6%男性育休
94.2%

※平均年収は提出会社単体・有価証券報告書ベース。順位は同33業種内の掲載企業での比較。

ここから下は自分で書く（面接で話すこと）

志望動機の核

上の数字・事業と接続して書く

自分の経験との接点

逆質問メモ

※1つはデータ起点で（例：勤続年数が長い要因は…）

直近ニュース＋一言

